

たすける人がたすかる

たすけて下さい、と願うと、それでは人をたすけなさい、と教えられます。これがお道の信仰で、人をたすけてわが身たすかる、と教えられているからです。

人をたすけたら、なぜ自分がたすかるのでしょうか。

それは、人をたすけるには誠真実が必要だからです。神様は、その誠真実を受取ってくださるのです。

おかきさげに、「誠一つが天の理。天の理なれば、直ぐと受取る直ぐと返すが一つの理」とあり、また、「人をたすける心は真の誠一つの理で、たすける理がたすかるといふ」とあります。また、おさしづに、「人間の誠の心の理が人の身をたすけるのやで。さあさあ人の誠の心が我が身たすかるのやで」とあるのは、神様が誠真実を受取って、それによって、たすける人もたすけられる人もたすかるのだ、ということをお教え下さっているのです。

実際、おたすけ人が 身上者をお与え頂いておたすけに運ぶ最中には、いろいろな姿をお見せ頂きます。今日の容体はどうかな。どうしておたすけ頂けないのだろう。私の真実が足りないのだ、と自分自身の心をつみつめていきます、時には水ごりをとったり、断食をしたりしてお願いにかかります。人のためにこれだけの心になる。それは、人にたすかって頂きたいとの誠真実です。このような心を、神様が受取って下さるのです。

心の成人、それがたすかる道です。人をたすけると、心の成人ができます。

またおたすけにおいては、たすける人とたすけられる人は同じいんねんの者同士を寄せて下さるということも、たすける人がたすかる要因です。

私は痔の身上から、この道の信仰に入りました。そして最初におさづけを取り次いだ相手が、やっぱり痔の方でした。私はおさづけを取り次ぎながら、自分が諭された心遣いを話、お願いさせて頂きました。

人をたすけるということは、たすける人の心をつくります。たすけてもらう人より、たすける人の心づくりが大切です。だから、たすける人がたすかるのです。

出典：『話の台』天理教道友社 Web ストアより購入可